

図書館の徹底活用術：学習支援の為の図書館の取り組み

(J・デューイの「メディアセンター」と図書館サービスのクロスロード)

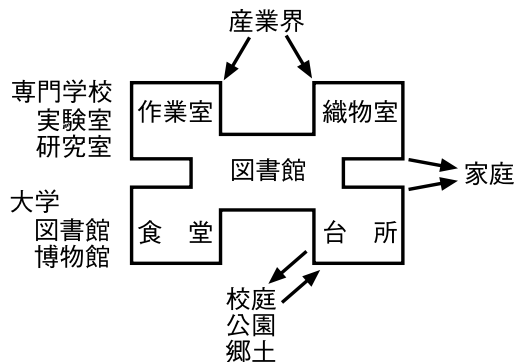
枝元 益祐

皆さんの学習支援の為の図書館の有用な活用方策の紹介をしていますが、前回の話題となった『学校と社会』を糸口にして具体的な話題展開をしたいと思います。

さて、そもそも学校教育に於ける図書館の位置付け、或いは、役割が「学校教育に欠くことのできない」ものであり、「教育課程の展開に寄与」と同時に、「学校教育の目的と一致する」ことは前回に既に述べました。そしてJ・デューイがその著書『学校と社会』に於いて、学校組織はその地域社会の縮図的要件を構造的に内包しているとの認識に立脚し、地域社会に於ける日常生活での子どもたちの経験を拡大することが学校教育の役割だと主張すると同時に、日常生活から切り離された教育活動を批判しました。

そういった日常生活の活動拠点として中心的存在として位置付けられているのが図書館なのですが、J・デューイは、このような教育活動に於ける中心的役割を担う拠点として図書館を、あらゆるメディアを保存・管理・利用に供する為の機関としての機能に注目し、メディアセンター機能を提唱しました。

ここで前回と同様の図を今一度見て欲しいのですが、これは学校組織をモデル化したのもので、その中心に図書館が位置付けられています。このことは学校教育に於ける学習活動の中心的拠点となるのが図書館であるという認識であり、その為に図書館が発揮する機能がメディアセンター機能であります。因みにこのことはカリキュラム内だけの事柄ではなく、物理的な学校施設にも多くの場合当て嵌まり、特に欧米の多くの学校ではどの校舎・教室からも平等にほぼ同様のアクセスを確保するために学校の敷地の中心に図書館が設置されている状況です。児童・生徒、或いは学生の学習活動に寄



(J・デューイ『学校と社会』宮原誠一訳
岩波書店、1957年、83ページ)

与すると共に、教員の教育・研究活動を支援する為に、教育活動に於いて必要となるあらゆる資料・メディアを提供する図書館が学校の敷地の中心に位置しているのもメディアセンター機能の特徴です。

そして京都外国語大学の附属図書館も正に、学校敷地内の中心に位置しています。更には、具体的な学習支援の為に提供されているサービスに関しては、「各種データベースへの接続」「レファレンス・サービス」「相互協力運用サービス」「購入希望図書サービス」「卒論サポート・サービス」「図書館利用ガイダンス」「ライブラリー・ガイド」「授業内ガイダンス」「ピックアップ・コーナー」などがあり、施設的・物理的側面に留まらず展開・提供されるサービスも学校生活の中心拠点となるような支援体制が整っています。勿論、これらだけに留まることなく、学生の皆さん一人ひとりが自立した学習者になる為の利用者の目には見えにくい取り組みも多々あります。つまりは、皆さんたちが学習活動を展開・進行していく為に必要な資料・メディアを提供するだけでなく、それらの活用の方策も併せて身につけて貰う為の中心的拠点(センター)こそが図書館であるということが出来ます。

今回も、抽象的な傾向の話題になってしまいましたが、次回は一步踏み込んで上記のような図書館活動及び皆さんの学習活動の拠り所となる『自由』概念について触れます。端的に言及すると、「知る権利」を有する利用者の「知る自由」を保障する機関としての図書館の性質に言及することで、学習指導要領でいう公的資質(自由・責任・権利・義務)と民主主義に於ける市民性を浮き彫りにしたいと考えます。

えだもと ますひろ(講師・図書館学・教育学)